

もうすぐ卒業する皆さんへ。

准教授

清水皇樹



名古屋音楽大学で教え始めて一番驚き感じたことは、大学4年間の間で人はこんなにも成長するものか!という事です。

1年生時の演奏の印象とはまったく人が違ったような魅力的な表現力豊かな演奏を卒業試験・演奏会で聴かせてくれます。このことは声を大にして言いたいです!

ですから名音大の卒業生は自

信を持ってこれからの音楽人生を歩んでいって下さい。

その長い音楽人生において22歳という年はまだまだ卵からようやく生まれたひよこみたいなものです。

これから先の勉強がもっと大切です。

常に音楽に奉仕する精神を忘れずに一生、音楽を愛し続けて下さい。

です。

卒業後は名古屋音楽大学大学院に進学予定で、あと2年間さらに発展した分野で学んでいきたいと考えております。

この卒業までの4年間で、ソロの分野はもちろん、伴奏の分野でもたくさん勉強させていただきました。ソロの分野では、私が得意とする近現代音楽の奏法を研究・模索しました。近現代では、それまでのロマン派や古典派とは違う、独特な和音や色使いで織り成されています。まだまだ勉強不足で掘みどころがなく苦労しますが、先生はそれらを手ほどいてくださるので、とても勉強になります。

伴奏においては、合わせることの愉しみというものがありませんが、ソリストのもつニュアンスや感情の表現や、色づかいなどがすごく刺激的で、そこからソロにつながる部分が数多くあるので、とても勉強になります。伴奏はこれからも仕事としても、愉しみとしても続けたい

です。

4年間の学部生活を終える今、私に足りないものと言えば、自分の引き出しにはないたくさんの表現や色づかい、根性です。今後は、今まで以上に一曲一曲に真正面から向き合い、その曲のあるべき奏法を自ら見つけて演奏できるようにしたいです。そして、いつかはその曲の持つ色や性格を、演奏を通して自分だけでなく、聴いてくださる方々にも味わってもらえるような演奏家になりたいです。



田畑孝高

(ピアノコース 4年)

「進学で表現に磨きを」

名古屋音楽大学

NAGOYA COLLEGE OF MUSIC

「演奏の喜びを子どもたちに伝えたい」

榎本麻衣

(ピアノコース 4年)



した。

私は大学生になってやっと、演奏する楽しさや喜びというものを実感できるようになりました。以前までは、高校受験、大学受験と失敗できない舞台が多く、演奏することが怖いと思っていた私ですが、大学受験が終わり、ひとつの壁を乗り越えた安堵感からか、大学に入學してからは自由に表現できる音楽の楽しさを見つけることができました。そしてそれをより引き出してくれる素敵な先生と出会い、充実した4年間を過ごすことができました。

名古屋音楽大学に通い、幸せなことにたくさんの舞台を踏む機会に恵まれました、そうした中で常に高い目標を持ち続け、それに向かって努力し諦めず、自分を信じることで、またそんな私を信じて応援してくれる方々がいたおかげで、私は成長できま

ました。4月からは大学院でチェンバロを専攻します。これからは、ピアノとチェンバロの両方から学んだことを活かし、活動していきたいと考えています。ピアノリストとして、伴奏の分野にもさらに力を入れて取り組んでいきたいと思っています。ソリストの心に寄り添えるようなピアノリストを目指していきたいです。そして、いつでも心をこめて、誠実に音楽と向き合い、人の心に届くような演奏ができる音楽家でありたいと思います。

4歳の頃にピアノを始め、自然な流れで音楽科への進学を決めました。高校入学を機に水谷榮子先生と出会い、それから現在に至るまで、水谷先生のもとで学んでいます。

私は、ピアノを始めた頃からアンサンブルが好きで、ピアノデュオや、合唱や声楽、管楽器の伴奏をするなど、さまざまな勉強をしてきました。また昨年9月には、モーツァルトのピアノ協奏曲第21番を稲葉地オペラオーケストラと共演しました。そうした経験の中でオペラにも興味を持つようになり、水谷先生のすすめもあって、大学入学を機に中野振一郎先生のもとでチェンバロを学び始め、学部3年生からは、ダブルメジャー制度を使って、ピアノとチェンバロの両方を勉強してき

ました。4月からは大学院でチェンバロを専攻します。これからは、ピアノとチェンバロの両方から学んだことを活かし、活動していきたいと考えています。ピアノリストとして、伴奏の分野にもさらに力を入れて取り組んでいきたいと思っています。ソリストの心に寄り添えるようなピアノリストを目指していきたいです。そして、いつでも心をこめて、誠実に音楽と向き合い、人の心に届くような演奏ができる音楽家でありたいと思います。



築山茉以

(ピアノコース 4年)

「見識を広げ、ピアノに活かす」